

第2回京都府総合教育会議

平成27年11月10日(火)

京都ガーデンパレス2階鞍馬

次 第

1 開 会

○知事あいさつ

2 意見交換 ～教育の振興に関する大綱の策定に向けて～

○学力向上について

- ・グローバル化に対応するための英語教育について
- ・主体的・協働的な学習（アクティブ・ラーニング）について
- ・子どもの貧困に伴う教育格差の解消について

○いじめや少年非行について

- ・いじめ、少年非行の低年齢化について

○学校の運営体制について

- ・教員の資質能力の向上について
- ・地域との連携について

第1回京都府総合教育会議での主な意見について

○「教育の目的は何なのか」生きて行く力、未来を開く力、コミュニケーション能力
(知事)

- ・子ども達のコミュニケーション能力が低下している中、社会の違いを体感、実感させることが重要。
- ・自分でライフプランをたてることのできる教育（生きる力）が必要。

(教育委員会)

- ・学びのスタイルが大きく変更していく中、これまでの知識を注入する教育から自分で考えて実行する型へ教育そのもののあり方が大きく移行。根本的なところで教育のあり方を大きく見直す必要がある。
- ・英語はあくまでも世界に向かってコミュニケーションをとるための手段であり、グローバル化が英語が上手になるだけの目的にならないようにしないといけない。
- ・親の願いは、自分の子ども達が将来にわたって自分達の力で生きる力をつけること。
- ・生きる力を与えるというのは、教育の目的の第一である。
- ・命の尊さや規範意識を高めていくことを子ども達に伝えたい。

○「教育環境づくり」

(知事)

- ・子ども達の未来を阻害するものを取り除く環境をつくる。いじめ、不登校、中退などの教育を受ける権利を阻害されないよう取り除くべき。
- ・総合教育会議において、教育委員会、学校だけの現場だけでなく、社会全体での教育も含めて取り組める幅の広がりをつくることを含めて検討が必要。

(教育委員会)

- ・子どもの貧困、貧困家庭に対して、親や教育現場だけでなく、社会全体で子ども達を学校へ送り出す環境整備が必要。
- ・地域貢献の子ども達の意識は育ってきている。地域の中に子どもが入っていく教育、地域とともに生きる教育が目標となっていく。
- ・京都は文化コンテンツ、山や海など自然環境にも恵まれている。日本の将来の社会を作っていく人材づくりにふさわしいところとして教育体制を構築すべき。
- ・学校が地域にいかにか支えられているかということだけではなく、学校が地域にどう貢献するか、支えるかという意識がいろんな形で学校教育に育ってきた。

○大綱について

(知事)

- ・子ども達にわかるような端的なメッセージを作っていく必要がある。
- ・「一つは生きていく力を与える」「一つはそういう力を妨げるような環境を取り除く」という観点から大綱をつくるべき。

(教育委員会)

- ・視点を子どもに置くのか教育現場に置くかで、メッセージをどう発信するのか。シンプルにわかりやすく一人ひとりの生きる力を養うための教育大綱を策定したい。

**第1回京都府総合教育会議で出された課題・意見等を踏まえ、
大綱に盛り込んではどうかと考えられる視点（案）**

**1 子どもたちが将来自立し、変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、
一人ひとりに応じて、個性や能力を最大限に伸ばす**

- (1) 勤労観・職業観、ライフデザインを考える力の育成
- (2) 確かな学力の育成
- (3) 規範意識やコミュニケーション能力など社会性の育成
- (4) 豊かな人間性の育成
- (5) 特別支援教育の推進

2 すべての子どもたちが夢を持ち、安心して学ぶことができる環境を整える

- (1) 子どもの貧困への対応
- (2) いじめ、暴力行為、不登校への対応
- (3) 教員の資質能力の向上
- (4) 地域と連携した学校づくり
- (5) 安心・安全な学校づくり